

報道関係各位

公益財団法人 国際高等研究所

## 国際高等研究所「けいはんな“エジソンの会”」第15回会合の開催について

### 今回のテーマ：AIやIoTによる社会インフラの維持管理

公益財団法人国際高等研究所（木津川市、理事長 立石義雄、所長 長尾真）は、けいはんな学研都市が標榜する「立地機関間の連携とそれによる成果の創出」を促進するための立地機関によるコミュニティの形成と、この街ならではの基幹技術・基幹産業の確立を目指して、「けいはんな“エジソンの会”」を開催しています。

具体的な「オープンイノベーション」の成功事例を造り込むだけでなく、けいはんな学研都市のコアとなる科学技術ドメインを確立することで、世界をリードするサイエンスシティを目指しています。この度、第15回会合を下記の通り開催いたします。

#### 【開催概要】

◆日 時 10月31日（火）13：30～19：30

◆場 所 国際高等研究所レクチャーホール（木津川市木津川台9丁目3番地）

◆参加者 けいはんな学研都市の立地機関を中心に50名程度

#### ◆プログラム

13:30-14:10 「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術における日本政府の取り組み」（仮題）

藤野 陽三 横浜国立大学 先端科学高等研究院上席特別教授

内閣府 SIP「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術」

プログラムディレクター

14:10-15:10 「メンテナンスレジリエンスにおけるAIの適応範囲/分野や将来の展望」（仮題）

村川 正宏 産業技術総合研究所 人工知能研究センター人工知能応用研究チーム長

（兼）筑波大学 システム情報系 教授（連携大学院）

15:20-16:20 「保全サービスのデジタル化についての取り組み」（仮題）

湯田 晋也 株式会社日立製作所 研究開発グループ 制御イノベーションセンタ

スマートシステム研究部部長

16:30-17:50 インタラクティブ・セッション

18:00-19:30 懇親会

◆参加費 5,000円 ◆定員50名、18歳以上

◆申し込み方法 高等研HP <http://www.iias.or.jp/communication/edison> よりお申し込みください。

※当会合は一般参加者を受け付けております。当会合開催の告知記事のご協力を何卒よろしくお願ひ申し上げます。また、報道関係者の皆様もご参加いただけます。この機会に是非ご取材いただきますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。

#### 報道関係者の参加申し込みについて

別紙返信用FAX用紙もしくはメールにて、10月30日（月）までにご連絡をお願いします。

なお、報道関係者の皆様の参加費については無料です。

（本件に関する問い合わせ先）

公益財団法人国際高等研究所 広報課 森口 有加里

TEL: 0774-73-4000 FAX 0774-73-4005 携帯:090-4288-4001 E-mail: [kouhou@iias.or.jp](mailto:kouhou@iias.or.jp)

## ○「けいはんな“エジソンの会”」の目指すところ

けいはんな学研都市が標榜する「立地機関間の連携とそれによる成果の創出」を促進するため、高等研が知的ハブとしての役割を果たすとともに、立地機関の研究者や技術者のコミュニティを形成し、具体的な「オープンイノベーション」の成功事例の確立に寄与することを目指しています。

取組みの核となる科学技術シーズの領域を人工知能～AI とし、2017 年度からは、AI について具体的な出口を見据えた研究開発を実践するために必要な内容を掘り下げて提案していくことに主眼を置き、研究機関や企業に属する様々な立場にある方々が、自ら AI を中心としたテクノロジーを活用し、具体的な製品、サービスを生み出すことができるようになるためのテーマ設定をしていきます。

具体的には AI とそれを取り巻く技術の最新動向を掘り下げて解説する「テクノロジー」編と、様々な分野における AI を駆使した最先端のソリューションや AI の活用に係る課題を扱う「システム・社会」編から、テーマを厳選してお届けします。AI を中心とした新たなテクノロジーがどのように活かされ、どのように新たなエコシステムが切り拓かれるのか、様々な分野の研究者や企業の皆様にも大いに参考にしていただけるものと期待しています。

## ○第 15 回会合の概要

社会インフラは経済を支える基盤ですが、老朽化が進み、事故リスクが顕在化している状況にあり、経済への甚大な影響を防ぐためのインフラ維持管理と新たな技術開発の必要性が高まっています。メンテナンスレジリエンスは、生産設備、道路、鉄道、空港、橋梁、堤防、ダム、上下水道、トンネルなどの社会インフラを維持管理して保全することで、トラブルやリスクにあらかじめ備え対応していくこうとするものです。社会インフラの異常検知のための点検作業を自動化・無人化して、飛躍的な効率向上を目指すものであり、AI や IoT の高度な活用なくしては、もはや時間的にもコスト的にも社会インフラを良好に維持していくことはできなくなっています。

第 15 回会合では、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) で、「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術」のプログラムディレクターを務めておられる藤野先生より、政府の課題認識と日本としての統合的な取り組みの状況についてご紹介頂きます。

産総研の村川先生には、人工知能研究の立場から、社会インフラ保守支援に関わる人工知能の適用範囲とそれを支える最先端技術及び今後の展望についてご説明頂きます。

また、日立製作所の湯田氏からは、保守サービスのデジタル化によるビジネス変革と保全分野への応用について、様々な導入事例を通してご説明頂きます。

メンテナンスレジリエンスにおける先進事例と今後の展望に触れていただくことによって、AI を中心とした新たなテクノロジーがどのように活かされ、日本の安全安心な社会インフラが維持確立されていくのか、分野を超えた研究者・技術者、企業の様々な立場の皆様にも大いに参考にしていただけるものと期待しています。

## ○「けいはんな“エジソンの会”」の企画・運営を行う「企画運営委員会」（順不同、16 機関）

- ・ **研究機関**：理化学研究所、産業技術総合研究所、情報通信研究機構ユニバーサルコミュニケーション研究所、量子科学技術研究開発機構、国際高等研究所
- ・ **教育機関**：奈良先端科学技術大学院大学、滋賀大学、京都情報大学院大学
- ・ **企業**：西日本電信電話株式会社、サントリーホールディングス株式会社、パナソニック株式会社、株式会社島津製作所、京セラ株式会社、オムロン株式会社、株式会社国際電気通信基礎技術研究所、日本電産株式会社

## ○オブザーバー（順不同、9 機関）

- ・ 京都府、奈良県、木津川市、精華町、奈良市、国立国会図書館、関西文化学術研究都市推進機構、関西経済連合会、京都産業 21